

勤労に感謝するのかされるのか、それが問題だ。

博士世界

【はかせせかい】 Prisoners' World

民間企業・アカデミックポスト

国内・海外

博士学生はどこに、どうやって向かっていくのか

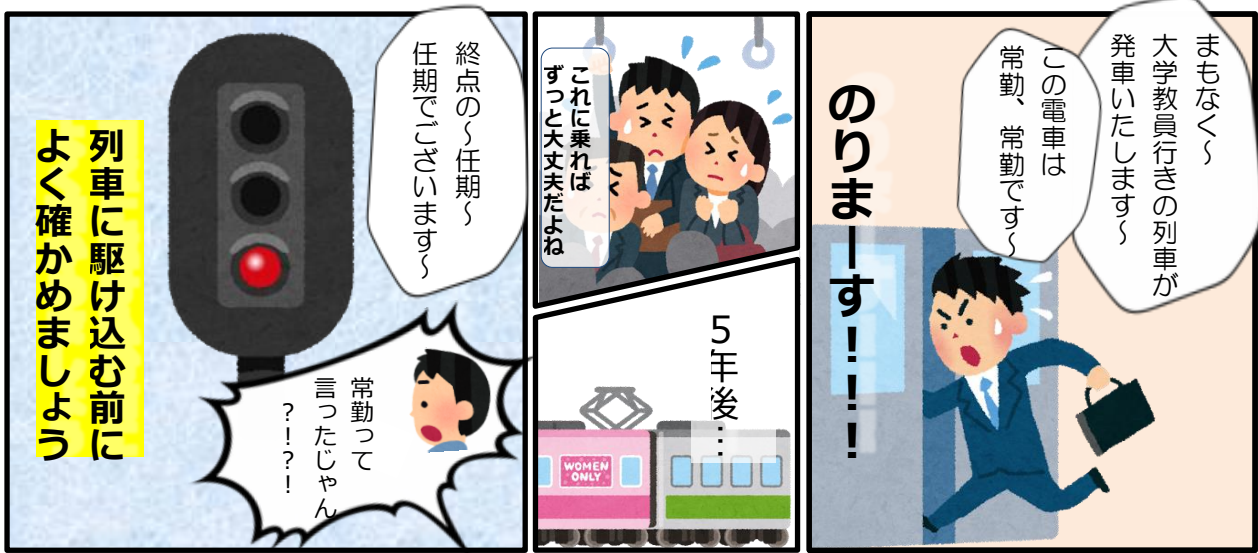
博士学生の進路・就職

数字で見る博士課程⑤

博士学生と就職

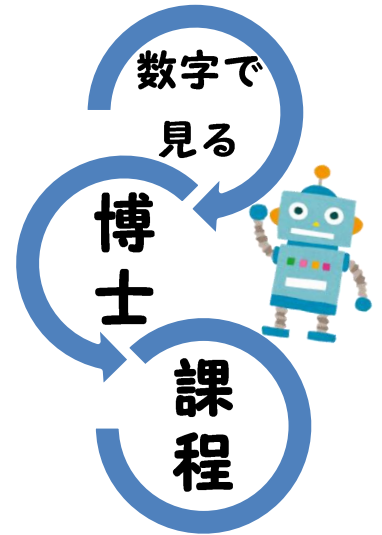
第5号

2017.11



第5回 博士学生と就職

今回は「数字で見る」からです！ 博士課程卒業生の進路の最新状況と30年間の変遷について紹介します。



最新の博士課程 卒業生進路事情

今回も文部科学省が実施している学校基本調査のデータを用います。学校基本調査では博士課程卒業生の進路についていくつかデータがあり、見やすいようにいくつかの図表及び項目を整理しました。図1より分野によって進路が異なる様子が見取れます。理学・工学・農学では高等教育機関の教員や保健医療従事者以外の専門的・技術的職業従事者が多く、大学以外の民間も含めた研究機関や企業

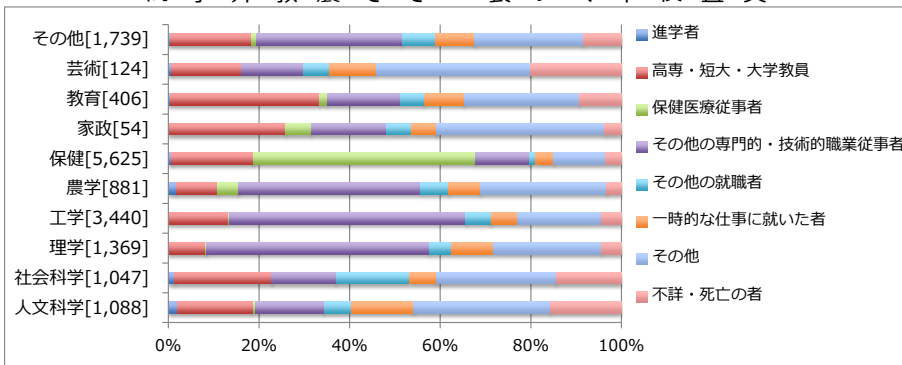


図1 2016年3月の博士課程卒業生の進路(割合) ※[]は卒業生数 (平成28年学校基本調査より筆者作成)

表1 2016年3月の博士課程卒業生の進路(実数(人)) (平成28年学校基本調査より筆者作成)

区分	計	人文科学	社会科学	理学	工学	農学	保健	家政	教育	芸術	その他	
卒業生総数	15,773	1,088	1,047	1,369	3,440	881	5,625	54	406	124	1,739	
進学者	114	22	15	4	4	15	43	0	2	1	8	
就職者	高専・短大・大学教員	2,542	181	224	109	451	81	1,020	14	133	19	310
	保健医療従事者	2,844	6	0	3	9	41	2,755	3	8	0	19
	その他の専門的・技術的職業従事者	4,447	165	149	672	1,795	354	660	9	65	17	561
	その他の就職者	795	66	169	68	192	54	83	3	21	7	126
一時的な仕事に就いた者	1,026	149	63	126	199	61	223	3	36	13	153	
その他	3,037	328	276	328	640	247	644	20	103	42	415	
不詳・死亡の者	968	171	151	59	150	28	197	2	38	25	147	
ポスドク(再掲)	1,436	96	77	300	405	113	215	3	37	7	183	
卒業生に占めるポスドクの割合	9.1%	8.8%	7.4%	21.9%	11.8%	12.8%	3.8%	5.6%	9.1%	5.6%	10.5%	
卒業生のうち満期退学者(再掲)	4,280	665	471	321	728	180	1,097	19	187	24	588	
卒業生に占める満期退学者の割合	27.1%	61.1%	45.0%	23.4%	21.2%	20.4%	19.5%	35.2%	46.1%	19.4%	33.8%	

で研究開発職や技術職に就いていることがわかります。また、保健は多くは保健医療従事者となっていますが、このうち9割ほどが医師です。人文科学・社会科学・家政・芸術は「その他」つまり無職が多く、就職者に占める高等教育機関の教員の割合が比較的高いです。実数については表1をご覧ください。

不詳・死亡の者とは…？

かつて博士が100人いたら8人が行方不明か死亡と書かれた創作童話が話題になりました。しかし「行方不明か死亡」というカテゴリーは学校基本調査にはなく、「不詳・死亡の者」を指していると考えられます。

ところで、今から40年前の1977年3月に卒業した「学部生」のうち11%（およそ9人に1人）は「死亡・不詳」でした。大学は恐ろしいところだった。というだけではなく、大学側の調査が現在よりも適当で文字通り不詳（行方不明ではない）だったのでしょう。

図2は学士・修士・博士課程卒業生の「不詳・死亡」の経年変化です。近年ではその率は低下しており、学士課程では1%を切っています。原因の一つに、2011年に施行された学校教育法

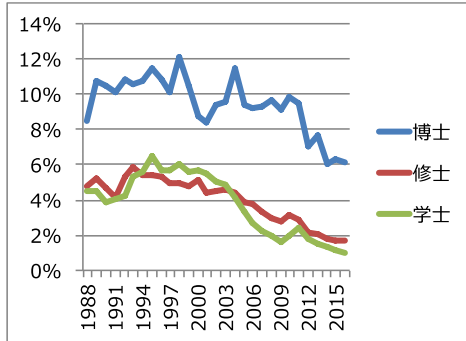


図2 卒業者に占める「不詳・死亡」に該当する項目の割合の変化 出典：各年の学校基本調査より筆者作成

たためだと考えられます。つまり各大学は卒業生の進路情報を公開しなくてはならないため、しっかりと卒業生の進路を調査するようになったのだと考えられそうです。また、大学にとって卒業生がきちんと就職できていることは大学のイメージ向上にもつながるので、そういった観点でも近年はしっかりと調査しているのだらうと思われる。なお、それでも博士課程の学生の「不詳・死亡」が多

いのは捕捉が難しいからということが挙げられそうです。実務的には学部生や修士学生には学位記を渡す代わりにこの種のアンケートを出せと言つことが可能ですが、博士卒業生の場合は現在も4人に1人が満期退学なのでそういった手段も利用できません。

分野別の就職状況の経年変化

さて、データの見方について気をつける視点が多ければ、博士課程卒業者の進路の経年変化について、1986年から10年ごとの4時点の比較で見えてきます。また、人文科学・理学の2分野については分野ごとにも見ていきます。

図3を見ると、就職率は2006年から2016年にかけて改善されたように見えます。高等教育機関の教員への就職者は実数では増加していますが、割合は減少傾向にあります。一方で、研究者や技術者といった専門性を生かした仕事に就く人は実数でも割合でも増加しています。なお、先ほど見たように保健医療従事者に就いている大半は保健系の卒業者です。

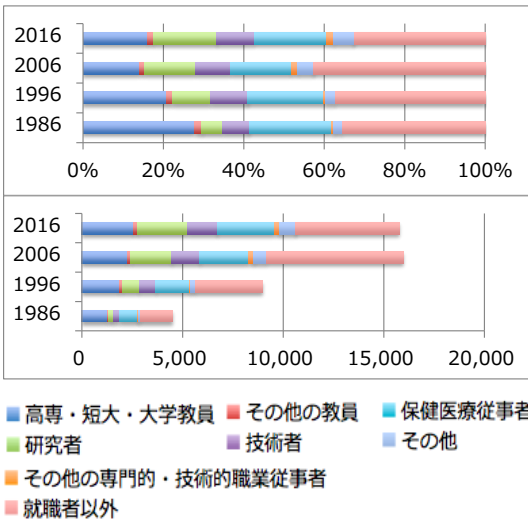
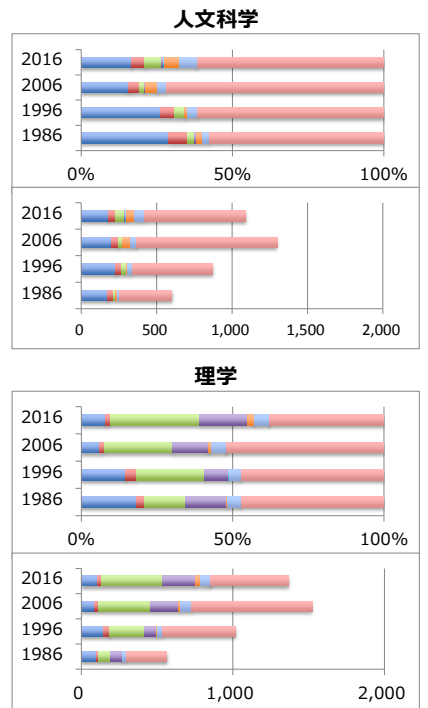


図3 博士課程卒業者の進路の変遷（上：割合）
（下：実数(人)）出典：各年の学校基本調査より筆者作成

表2 新規採用教員数の変遷（単位：人）
出典：各年の教員統計調査より筆者作成

	30歳未満		全体	30歳未満の割合
	25歳未満	25歳-29歳		
1986年	517	2,782	8,838	37.3%
2001年	236	2,510	11,223	24.5%
2016年	246	1,868	12,805	16.5%

分野別に見ると、人文科学では就業者の大半が高等教育機関の教員である状況はそれほど変わっていません。しかし、理学では大学以外で研究者として就職する博士課程卒業生が数も割合も増加していることがわかります。



ところで、図3で教員への就職数が増加しているとしましたが、表2を見ると30歳未満で大学教員に就職できる人が減少していることがわかります。これは、かつては多くいた、博士課程を中退して教員になる人の減少を示しているといえそうです。就職状況のデータ以上に教員採用は厳しくなっているといえます。今回は「博士学生と研究」です。（執筆：マスター）

目次

ドクター(?) まんが②	2
数字で見る博士課程⑤	2
特集 博士学生の進路・就職	4
読者コーナー・編集後記	8



特集！

博士学生の進路・就職



博士課程に行つて、で、その先は生きていけるの…？
 在学生のみでなく、進学を考える人、博士学生の家族・
 恋人等多くの方が気になるこの話題。今回は5名の博士
 課程経験者（卒後10年以内）にご協力いただき、民間
 企業への就職や、大学教授・ポスドクター等のポスト
 へ進んだご経験をつかいました。加えて、こういった
 テーマに関連する用語、よく出てくる言葉を説明します。

☆みなさんには性別・博士課程在学時の専攻に加え、
 7つの質問をしました☆

- ① 現在のお仕事・お立場は？
- ② その職・お立場になろうと思ったのはいつですか？
- ③ その職・お立場になろうと思ったのはなぜですか？
- ④ その職・お立場になるため何か対策をしましたか？
- ⑤ (逆に) こういうことをもつとしておけばよかったです
 と思っていることはありますか？
- ⑥ これまでの就職やポスト獲得に関する失敗談を教
 えてください。
- ⑦ 「院生、学部生に伝えたいこと」等があればお書き
 ください。

民間就職編

【SPI(エスピーあー)】適性検査の一つ。適性検査には他にも玉手箱、GAB、内田クレプリン精神検査といったものがある。就職試験における面接試験の前などにスクリーニングのために実施されるが、そのための対策用のテキストなどが書店で売られている。なお、編集部員の個人的な体験談だが、何社も試験を受けていると同じ問題が出てきて…(以下、検閲削除)

【リクルーター(りくるーたー)】時には味方、時には敵の採用担当者。採用活動解禁日前に「お話し」と称して、事実上の面接試験を行う一方で、志望動機の整理などを手伝ってくれたり、入社まで連絡をとり続けてくれたりしてくれる。つく場合は同じ大学等の先輩であることが多く、つかない企業も多々ある。

会社員

Aさん 男性 理学系(数学)

※博士課程を離れてから学位取得

- ① メーカー勤務、ファームウェア開発職、正社員(常勤)です。ファームウェアのプログラム作成を中心に、新技術の調査・研究が仕事内容になります。
 (編集部補足:ファームウェアとは、家電やスマホといった電子機器等に入っていてそれらを動かすためのソフトウェアのこと。「ソフト」ウェアだが、簡単には書き換えられないfirmウェアということでこの名前で呼ばれる。)
- ② 特に現在の職にこだわって決めただけではありません。民間企業への就職を考え始めたのはD4の冬くらいから。
- ③ 当時研究していたテーマで新たな成果を上げるのが難しいと思っていた。しかし、院生の身分で分野を変えるのも時間が足りずリスクも大きいので、就職することで(現在のテーマが生きる)新たな分野に乗り出そうとしたから。
- ④ (本職というよりは、民間企業就職についてですが) SPIや一般常識などのペーパーテスト対策。
リクルーターの活用。結婚予定があると面接で言つ。(実際予定があつたわけですが…)
- ⑤ もう1年早く就職活動をしておけば良かったかも。
 (自分の就職活動をした2009年度はリーマンショックで研究職就職の口が激減した)
 研究していた内容、あるいは個人の能力の応用性についてもっとよく喋れるようにしておけば良かった。
- ⑥ 2009年の就職活動のさらに1年前に当時の研究に関連した企業から就職の誘いがあつたが、SPI等のペーパーテスト対策を何もしていなかつたので、それが原因で落ちてしまつたことがある。
- ⑦ 特に博士課程に在籍している皆さん。民間企業には解決を待っているたくさんの方がいます。民間の安定した地位で自分の研究・問題解決能力を舌かきしてみませんか！

【TOEIC (とーいっく) / TOEFL (とーふる)】どちらも英語の能力を測る・あるいは証明するための有名な試験で、TOEICは主にビジネス寄り、TOEFLは留学等で必要、といった使い分けがされている。大学院入試は最近では独自の外国語の試験ではなく、TOEFLなどの得点を利用される場合もある。また就活では、希望する部署によりTOEICの得点の目安などを設けている企業があるようだ。

Bさん 男性 工学系 ※博士号未取得

- ①電機メーカー正社員 研究/開発職
- ②D2の3月頃
- ③アカデミックポストは難しいと感じながらも、似たような仕事をできる場所がないか探していたところ、修士時代の先輩(博士卒)が勤めている企業が新入社員を募集していました。先輩もいるし、博士を採用することにも積極的な企業だと、なかば安心して応募しました。
- ④何もしていません。企業の就活なのに、TOEICすら受けませんでした。
- ⑤企業の研究/開発職という枠で入社しましたが、部署の独立性は低く、好きな研究を好きなだけやれるというわけではありません。雑用に近い業務も多くあります。就活の短い時間の中でも、そういった具体的な情報までたどり着けていれば、より良かったと思います。
- ⑥面接で自分の研究のプレゼンをしました。正直何も伝わらなかつた気がします。例えば、専門用語を説明しようとしても、どのくらい背景まで遡らないといけないのかが咄嗟に分らないとか。そんなこともあって、面接の結果は微妙でした。
- ⑦大学などの研究職は常勤のポストを見つけるまでが大変なようですが、企業はそういった心配はなく研究に打ち込める利点があります。

Cさん 男性 医歯薬系

- ①コンサルティング業界の会社にて、国内企業の経営層をお客さんとし、経営戦略づくりとその実行支援の仕事をしていました。これまで、食品・生保・電機・製薬業界の企業向けに、新規事業分野への参入支援、既存事業のテコ入れ支援などのプロジェクトに従事してきました。私の現在の職位はシニア・アソシエイトという見習いのような立ち位置で、先輩コンサルタンの指導の下、修業の日々を送っています。
- ②D2の秋頃です。それまで3年間取り組んで来た論文が受理され、時間的にも心理的にも余裕ができたとき、アカデミア研究者としてまい進するキャリアに迷いを感じました。そこで博士学生向け就職説明会に参加したところ、経営コンサルティングに携わる理系博士の方々に出会いました。彼らが博士としての矜持を保ちながら、その資格に捉われず広い産業分野を俯瞰して仕事をしている様に圧倒され、自分もこの仕事をしてみたいと思うようになりました。
- ③自分の視野と、知的労働者としての幅を広げたいと思ったからです。当時、自分の専門以外に世の中のことが分からなくなりつつあった自分に嫌気が差し、さらにはキャリアの可能性が研究者一本に狭まっていくことへの危機感もありました。私の価値観として、専門を大切にしつつも思考力を武器に広い視野で世界と関わる「T字型」職業人に憧れがあり、経営コンサルティング業はそのような職業人になるための理想的な場面に思えました。
- ④コンサルティング会社の面接では必ず「フェルミ推定」の問題が出されると聞いたので、その対策をしました(例えば、「日本にある電柱の数を推定しなさい」といった問題です)。具体的には、「過去問で鍛える地頭力」という対策本を読んで考えるの道筋を学び、さらに知り合いのコンサルタントに頼んで模擬面接してもらい練習をしました。



国内

- ⑤応募から内々定承諾までを2ヶ月という短期で済ませてしまったのですが、振り返ると、内々定をもらってから承諾するまでの時間を少し置いて、「本当に研究の道を離れていいのか」と自問自答したり、周囲に相談する期間を設けた方が良かったように思います。指導教員を始め周りの方々は私の決断の早さに戸惑っていましたが、私も内々定承諾後、自分の決断を後悔する期間がありません。
- ⑥現在勤めている所とは別のコンサルティング会社の採用試験に向かう途中で道に迷い、10分ほど遅刻しました。会場に入ると、他の受験者から一斉に睨まれました(あの視線は今でも忘れません)。彼らは私が到着するまで試験を開始できず、私を待っていたのです。私は気が動転して試験は全然できず、当然、選考には落ちました。
- ⑦経営コンサルという博士とは無縁の世界に入ったつもりでしたが、意外にもビジネス界においても、博士号は最高学位として大変な敬意を払われます(特に欧米や新興国の人からはそれが顕著です)。職場において、「私はこの分野のPhDです、だから必要があれば専門家として頼ってください」と言っている仕事ができるのは、恥ずかしさもありません。嬉しいものです。「足の裏の米粒」と揶揄される博士号ですが、役に立つ場所はきっとどこかにあると思います。



次ページからは、大学や研究機関への就職についてお伝えします。関連して、大学教員の年齢層と職位について、本誌記者の末広アパート2号が統計データをもとにまとめた記事を[Ha \(hakasesekai.jindo.jp\)](http://hakasesekai.jindo.jp)に掲載しています。こちらもぜひご覧ください！

アカデミックポスト編

【公募(こうぼ)】人材を広く一般から募ること。教員や職員の募集についての情報は大学や研究所のHPに掲載されるが、それらの求人の中半は科学技術振興機構のサイトであるJRECIN(じえいれつく・いん)に登録されるので、このHPから自分の分野や地域の公募情報を検索してみよう。JRECINはキーワード等に登録すればそれに合う公募の更新情報をメールしてくれたり、Web上で履歴書が作れたりと便利である。

Dさん 女性 教育学系 ※博士号未取得

- ① 助教、常勤
- ② 研究者になりたいと明確に思ったのは修士課程に進学するときだったが、現在のポストを得ることを考えるようになったのは博士課程4年目のときだった。それまでは就職できるほどの実績が自分にあるとは思えなかったので考えていなかったが、先輩からの勧めで現在のポストの**公募**情報を聞き、現実的に現在の職を得ることを考えた。
- ③ 研究を続けていきたかった、教育という仕事をしたかったから。加えて、現在の勤め先は自宅から比較的近く、常勤のポストで非常に条件が良かったから。
- ④ 現在の職を得られることは、それを得る直前になるまで全く現実味がなかったため、そのことを目指して具体的な対策をしたことはないが、「就職するため」という漠然とした目標に対しては、とにかく**業績**を積み上げることが大事だと思って行動していた。自身の専門分野の学会は必ず発表するようにした。ただ、就職ができるか否かの問題よりも、研究者としての能力が自分にはあるのかという不安と戦うことの方が目の前にあり、その不安を打ち消すために論文を書くことを続けていった感じがする。その結果、現在の職が幸運にも得られた、といった印象。

大学教員

【教育歴(きょういくれき)】大学等で学生に講義を行ったことがあるかどうかといった、教育活動の経歴のこと。TA(本誌創刊号の特集参照)の経歴も教育歴だが、TAは補助的業務なので非常勤講師(兼任講師も同じ意味)や本務教員の経歴のほうが有利と考えられる。また、大学教員の応募・面接時はシラバス提出や模擬授業の実施が課されることが多い。応募までに一通りの教育方法(講義の目的の検討、学期を通した予定の作成、毎回の時間配分及びPC画面や板書等の準備など)をマスターしておきたい。

なお、教育活動に従事せず研究のみしたいという人は、教育についての知識・スキルが特に求められない職(例えば、卓越研究員の立場や研究所への就職)を探す方が自分自身にも周囲(大学生や同僚等)にも良いだろう。【業績(きょうじせき)】研究論文、学会発表、著書等、専門分野に関わる活動の実績のこと。文系では一般的に著書と論文が重点的に評価される場合が多い。(続く)

- ⑤ 学部生時代は今振り返ればヒマだった。この時期に短期でも海外留学をしておけば良かった。また、現在、海外の論文を読む機会が多いので、英語にもっと触れておけば良かった。
- ⑥ 実のところ応募したのは現在の勤務先の1件だけで、一発合格という形になった。よって幸いなことに「失敗」とする話はない。
- ⑦ 研究者を目指す方へ。研究者を志すとき、いまだ外部からの評価もなく自身の研究能力に不安をおぼえる方も多いと思います。しかし研究活動の中で人との関わりが途切れなければ研究者としての道は続いていくはず。それを信じて頑張ってください！



理系では、学会発表を行うために「抄録」よりも長い論文を書き、審査を通過する必要があるという分野も少なからずあるため、論文と学会発表の質と量が重視される。

また、若手なら単著論文の多さは新進気鋭である証と思われるかもしれないが、ある程度研究歴があるが単著論文ばかりの人は「共同研究ができないのかな」と思われる可能性もあるので、先輩や教員に確認しておこう。

【常勤(じょうきん)】明確な定義はないが、基本的にフルタイムで勤務することが常勤であり、そうではない(週当たりの労働時間が短い)のが非常勤である。ただし、官公庁では任期付きの職員を「非常勤職員」と呼ぶことがあるので注意が必要。逆に言えば、常勤職でも任期がある場合とない場合があるわけで、週当たりの労働時間と労働契約の期間は別物と考えてよいだろう。

【特任(とくにん)】定義は大学によって様々だが、基本的に「任期つき」という意味。概ね次の3種類に分類できる。①研究プロジェクトによる雇用②民間企業や公務員からの派遣③定年退職後の継続雇用。肩書きに「特任」と付かなくても任期付きのポストもあるので注意。

【任期(にんき)】期間の定めのある雇用における雇用期間。常勤職員とあっても任期付きのことがあるので注意が必要。また、任期の間に充分に業績を上げ、所定の基準や審査をクリアすることで任期なしになれる「リニューアルラック制」を導入している大学等もある。

【若手(わかて)】比較的若者の部類に入る人たち。定義は様々だが、大学教員の場合は35歳または40歳までを若手とする場合が多い。ちなみに、科研費でいわれる若手は平成29年度までは「39歳以下」であった。また、文部科学省が実施している国立大学改革強化推進事業の目標値の一つでは若手を40歳未満としている。

ポストドク

Eさん 男性 理学系(物理)

①フランスの公的な研究機関の基礎研究部門にポストドクとして雇用されています。常勤ですが、1年契約+1年更新の約束あり、という、任期付です。

②アカデミアに残って研究を続けていきたいという思いは学部
のときから(もつと)言うところが高校生(子供の頃から)持っていました
が、もちろん常に不安はありました。博士課程への進学には
迷いませんでしたが、博士課程終了後にアカデミアに残って
いいのには、不安もありました。というか今もあります。笑
博士課程3年のときには、企業の研究所もほんの少しだけ見
ましたが、自分の興味や理想の研究者像からずれるなと思
い、まあなんとかなるでしょう、やれるところまでやろう、とい
う気持ちで、いまもアカデミアで研究を続けています。決心し
たのは、なんだかんだD3の5〜6月あたりです。

そのときに今のポストが決まっていた訳でもないのですが、ずっと
これでいいのかと不安に思い続けていました。笑

③研究をしていきたい、科学に携わりたい、という思いが常にあ
りました。研究者として企業かアカデミアか、という点で言
うと、自分の興味のある純粋なサイエンスを追求するには、企業
ではなくやはりアカデミアが適していると思えました。また、
企業の中で様々な制約に縛られるよりも、アカデミアなら自分
で自主的に科学に関する活動(アウトリーチなど含む)を大
学や研究機関にとらわれず内外で自由にできるというの
も、アカデミアを選んだ理由の一つです。

アカデミアで研究を続けるなら、一度は自分の分野が
盛んな国(僕の場合フランス)で研究経験を積むことは、
長い目でみて有意義だろうと考え、出来れば
フランスでポストドクをしたいと考えていました。

【海外学振(かがいがかくしん)】日本
学術振興会の「海外特別研究員制度」。採
用されると往復航空券代や滞在費・活動費

の支給を受けながら海外の大学や研究機関で研究
できる。応募には博士号取得後5年未満等の条件がある。

④対策というほどのものではないですが、海外派遣制度を利用し
て海外の研究室の訪問や滞在をする、国際会議などで海外に行
ったりしたときにはその周りの研究室を訪問するなど、面白い
or自分がそこに行きたいと思うような研究室が無いが、
積極的に探していました。その過程で仲良くなる研究室も
出てきたりして、予算があれば雇いたい(結局予算が
無かった)と言われたこともあります。

色々と訪問する意義としては、繋がりを作って自分の
見識を広げられるのもそうですが、ポストドクの数年間
身を置きたいと思える場所を探したかったというのもありま
す。院試前の研究室訪問とか就活で企業を訪問するような感じ
ですよ。

…とまあ、いろいろ語っていますが、**海外学振**に落ちて、出身
研究室によく訪問してきていて僕と共著論文を書いたフラン
ス人に相談したところ、彼のプロジェクトで雇えるかもしれな
いという話をもらいました。そのプロジェクトは他の研究室と
共同で取ったものなので、一度そっちの研究室も訪問してみ
いかとD3の8月末に言われ、10月上旬に訪問してセミナー
などをしました(実質面接ですね)。彼が今のポストです。結局
は普段から研究を頑張るのが一番の対策かもしれません。

⑤D2の1〜3月に海外の研究機関に滞在していたこともあり、
就活の説明会などにはほとんど出ることが出来ませんでした。
アカデミアに行くにしても、広い視点をもって企業も見て、そ
の上でアカデミアの方が良いと判断すべきだと思つたので、広く
企業を見るタイミングを逃してしまつたのはもつたいなかつ
たなと思えます。その点で、修士で就活イベントに参加などし
ていたら、博士課程の最初からすでに吹っ切れていたかもしれ
ません。帰国後に企業の個別の説明会をピックアップして雰囲気
気だけつかんで僕は決心できましたが、「企業に行っていれば
…」などとアカデミアに進んだ後に思わないように、自分の決
断を前向きに捉えられるように、どこかのタイミングで企業を
見ることは有意義だと思います。

⑥失敗ということではないですが…直接話したことのない海外
の人でも、興味のある人にはビビらずにどんどん連絡を取
って、ポストドクの応募をすれば良いと、今では思います。(続く)

海外

海外学振も国内学振PDも落ちましたが、その
後でなんとか行き先が見つかりました。他にも応募で
きるものがあればほとんど応募したら良いと思います。

⑦アカデミアとかポストドクとかは先が見えなくて怖
いかも知れませんが、行けるところまで行って、ダメだ
ったらそのとき考えたら良いんじゃないですかね？
挑戦せずに諦めたら、もつともつと後悔すると思います。

学科や専攻の優秀な同期たちがほとんど企業就職を決めて
いったりしますが、流されずに自分で判断しましょう。
海外でのポストドクというのも、最初は生活の立ち上げや事務
手続きなどが無駄に(研究生活的にはほんとうに無駄です)大
変ですが、やりたいことが海外にあるならビビらず視野を広げ
て考えたら良いと思います。もちろん、海外に行ったからとい
って成長できるとか良い論文がかけられるなんてことはありませ
ん。研究は研究です。研究以外の他の面でも海外生活を楽しめ
る人には、とても向いていると思います。

【学振PD(かがいがかくしん)びーでいー】学振の中でも
博士号取得後の研究者の支援を行うものである。「学振」
については本誌創刊号の特集の用語集を参照されたい。

まとめ

博士課程まで進む意欲や能力があっても、博士号を取
得しても、就職できるか、自分に能力があるのかという
疑問や不安はついて回ります。また、運も実力のうちで
すが運のみに頼れる就職はなく、タイミングを逃さない
ための業績・人脈作りにも動かし損はないでしょう。

なお、今回取りあげていませんが、博士号取得後に自
身で作った会社で働く・家業を継ぐ・大学に進学する等、
さらに多様な道があります。研究を続けるか後になって
再開するか自分で決めなければならぬ一方で、自分で
決められる面があるともいえるかもしれません。
最後に、協力者の皆様に厚くお礼申し上げます。

(取材&執筆 ソクラテス・マスター)

読者コーナー

第3号の発行後から今号の発行までに、いくつかのメディア等で本誌を取りあげていただきました。博士課程を経験している方・考えている方、そうでない方、その周囲の方も含め、多くの方に情報をお伝えできていましたら幸いです。

そんな中、本誌第3号で取りあげました

「博士学生の恋愛 第1弾 女性の場合」

について読者の方よりご意見をいただきました。



女性の皆さん、出産のタイミングや研究とプライベートの両立など不安ですよ。私も同じ境遇でした。しかし約3年前、満期退学直後に「予定外」の妊娠をし、非常勤・博論執筆・子育てを同時進行させる状況になり、不安は無くなりました。「案ずるより産むが易し」。子どもが産まれても、案外どうにでもなるものです。様々なサポートを活用すれば、ゆつくりと前進することができます。これから先は、忙しくなることはあっても、暇になることはありません。ですからあまり不安がらず、自然に任せてはいかがでしょうか！

(ペンネーム Dr. ゆつくり前進さん)

ありがとうございます！



「博士世界」印刷版販売について

博士世界編集部では、本誌の印刷版の販売を行っています(1冊100円、東京・千葉にて)。ご興味のある方は、下記QRコードまたは本誌HP(hakasesekai.jimdo.com)から注文フォームにアクセスしてください。



雨二モ負ケズ
台風二八届ス
(※10月イベントでの販売中止…泣)

読者コーナーへの投稿、
本誌へのご意見・ご要望は

メールアドレス

[hakasesekai2016\[at\]gmail.com](mailto:hakasesekai2016@gmail.com)

へお寄せください!

([at]は@に変えてください)

※ご連絡の際には
ペンネーム・専攻分野・学年・性別を
添えてください

編集後記

うまくいったときもそうでないときも、最後の結果だけを以てしてそれまでの全ての過程を肯定・否定しすぎないように気をつけたいと思っています。(ソクラテス)

最近、とある指定統計を回答する立場を経験し、データがどのように集められているかの実態を知ることが出来ました。データエビデンスとよく言われますが、数字というものは文脈から離れて一人歩きしがちです。データ分析が誰でも容易に行えるようになった今、そのデータの文脈をきちんと把握して解釈することこそが専門家の役割だと思えます。そのためには、データがどのように収集されているかについても把握しておく必要があると実感しました。(マスター)

ポストゲットには多分に「運」が伴う。慌てず腐らず、やるべきことをたんと。諦めたときが終わるとき。一寸先は光、言い得て妙なり。(末広アパート2号)

博士世界 第5号

二〇一七年十一月二十三日発行

編集・発行 「博士世界」編集部

(大上真礼・寺田悠希・林直樹)

Special Thanks to 有子山俊平

2018年2月に刊行予定の本誌第6号は
最終号特集「博士学生と研究・業績」
数字で見る博士課程⑥博士学生と研究
などを掲載する予定です。お楽しみに!